(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出顧公開番号

特開平9-107654

(43)公開日 平成9年(1997)4月22日

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 3 頁)

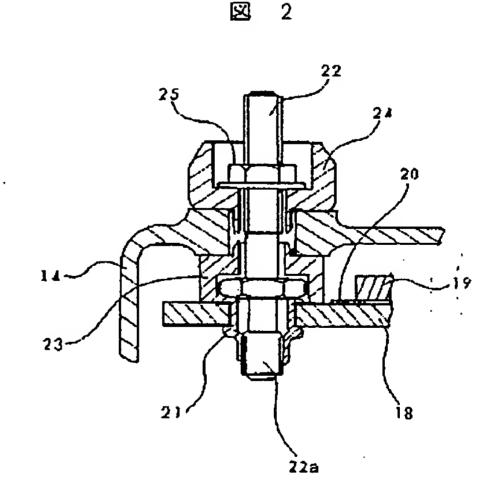
(21)出顧番号 待顧平7-263854 (71)出顧人 000005108 株式会社日立製作所 (22)出願日 平成7年(1995)10月12日 京京都千代田区神田駿河台四丁目 6 譽地 (71)出題人 000232999 株式会社日立カーエンジニアリング 312 茨城県ひたちなか市高場2477番地 (72)発明者 小栗 孝 茨城県ひたちなか市高場2477番地 株式会 社日立カーエンジニアリング内 (72)発明者 本田 義明 茨城県ひたちなか市大学高場2520各地 株 式会社日立製作所自動車機器事業部內 (74)代理人 弁理士 小川 黔男

(54) 【発明の名称】 車関用交流発電機

(57) (要約)

【課題】サイズの異なる出力繼子ボルトを、同一の整流 装置から容易に取り出すことが可能な発電機の出力繼子 の構造を提供する。

【解決手段】発電機の出力端子を、発電機の出力端子を 構成する出力端子ボルト22の反取り出し側に、雄ねじ 部22aを設け、(+)側冷却フィン18に設けられた 貫通孔に加締め固定された片側締結ナット21に、出力 端子ボルト22の雄ねじ部を締結固定する。



20/80/00

ĉ

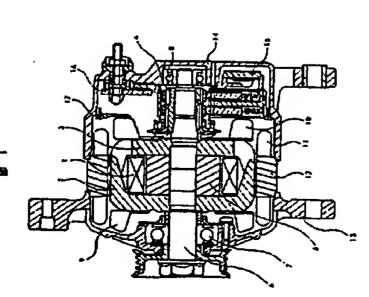
特配平9-10765

「何中の気配)

9… (-) 風俗句フィン、20…代はワート、21~ 原幹結ナット、22…出力端子ボルト、22a…様/ 23, 24…他はブッシュ、25…ナット 18…(+)配益47 14…エンドフレ 子を取り出すことが可飽となり、部品点数の特加を防止 [四1] 本発明の車両用文法是名板の断面回。 [四2] 本発明の車両用文法発名板の出力組予部の断面

[図面の前単位説明]

[図2]



オードを保持する深い板状の(+)関語却フィンと、選 国記金属数エンドフレームの外側に取り出される出力路 子を何えた連両用交換発電機において、前記出力信子の [油水頂]] 発電限の整度符配を構成する複数値のゲイ 反戦も出し動には、昔むじ類を設けられ、ほぼ(+)館 冷却フィンには、真道孔が設けられ、前記(+)原治自 フィンの耳道六に加棒め固定された片乗締結ナットに前 記出力場子のほねじ部が砕め付け図定されたことを特徴 名類のハクジングを排成する金は終エンドフレームと、

[名明の耳する技術分野] 本発明は車両用交流発電機に (発明の詳細な説明) [1000]

[0002]

とする単同用交往独合物。

【従来の技術】従来の車両用交流発電体では、出力増予 高地学品 その固定方法は、出力増子を発電板の袖方向に取 (+)関冷却フィンに看気的、破焼的に接続固定されて 出力指子ボルトピローレットを設け、(+)概念却フィ り出す場合は、例えば、特別組の-109746号公報では、 ンに設けられた真道木に圧入固定する方法をほってい は通常整成装置を構成するダイホードを保持、

[0003]

ፍ 近によれば、発電板の出力指子ボルトが、冷却フェンに 【発明が解決しようとする課題】発電機の出力指子は、 過常M5以上のポルトで情報され、車両関のハーネスに 高気的に指提された既然指子を、鬼窩窩の出力指子ボル トに挿入しナットで締め付け固定されているか、従来技 出力増子の取り出し位置が同一で出力権子のサイズが異 なる場合に、ローレット区が異なり四一の監察技習が使 冷却フィンに軽ねじ部を設けて締め付け固定する方法も **考えられるが、治却フィンの仮厚から治却フィンに役け** 原さ4年のアルミ製作却フィンの場合、出力増テポルト 出力増テポルトの反取り出し間に揺むじ部を設け、 ローレット圧人によって歯定されているため、例えば、 ることが可能な動むじのサイズが勧約を受け、何えば、 用できず、都品点牧が多くなるという問題があった。 はMS以下となってしまう。

ボルトを、何一の監論後置から容易に取り出すことが可 サイズの異なる出力指子 他な発電機の出力鑷子の宿留を提供することにある。 [0004]本発明の目的は、 (0000)

유

【釋迦を解決するための手段】 前述の目的を達成するた ひ、本是明は発電鉄の出力指子を、発電鉄の出力信子を 改な、(+)配存セノンに致けられた回道人に互接の 指式する出力値テポルトの反映り出し倒に、ばねじ部を 固定された片原幹枯ナットに、開記出力塩テポルトの様 りじ却を締結固定する構造とする。

S

ルトの反取り出り最にはねじがを投り、(+)更活力フィンに抜けられた質道穴に并更強指ナットを絡結固定 大型雑拾ナットの出力指十六六十のはつつ四小雄結 閻定する構造とすることにより、出力端子ポルトの最大 径に合わせた片原体枯ナットを冷却フィンに蒸ぎできる ので、冷却フィンの板厚の制力を受けることなく、同一 [0006]発程級の出力増子を、

名和歌の狂力指中北

结配平9-10765

8

の登급装置から異なるサイズの出力培子を取り出すこと 、発明の実験の形態】以下、本発明の一美格試を提明す が可能となる。 [0001] 유

よって回転目由に支持されている。ボールコア2、3の 【0008】図1は本発明を適用した車両用交進発電機 +フト6に関抗されており、西道や人グリング7、8元 福岡には、冷却フォンタ、10が依頼的に固定されてお の所団囚を示す。この発路後は、界団コイルー、ボール コア2.3.スリップリング4を再する回転子5は、シ 回転子5の外国にはステータコイル11を背するス タコア12が、発色体のハウジングを構成する一対 方式によって抜けされている。ペアリング?はフロント ペアリング8はリヤ倒エンド フレーム14代それぞれ支持されており、リケ例エンド の略依状の金属調エンドフレーム13、14にインロー ファーム14の内壁には、塩田調整用のレギュレージ ファンガ 5、三相交流を全戒整流する整備装置16。 ドープ等の内部部品が装置されている。 倒エンドフレーム13に、 Ð ೭

ず、この是高度の登職技習16は、三相交流を主義整済 [0009]図2は車両用交流発着機の出力増子はを示 ダイキ ード吊子を支持、冷却する金質製の (+) 関係却フィン (一) 銀谷ゼレィン19、街路ワート20、タバ オードボ子を放校する端子をインサート成形した出路だ ÷ わり.(+)側浴却フィン18に妖音された片側輪結ナ 枯ナット21が加海が固定されている。出力増テポルト 22の反取り出し席には、ほわじが22aが設けられて **野メンドレフームしゅ、危線ケッショの4 6/4つたナ** ット21に締め付け固定され、絶珠ブッシュコ3. の因示されていない。強子台から構成されている。 する複数値の図示されてないダイオード来デと、 原命却フィン18には質過穴が設けられており ト25で締め付け固定されている。 1 8.

発電機の出力端子ボルトの反散り出し側に推ねじ部を設 け、(+)配合却フェンに設けられた質適穴に片像経結 の揺れじ部を特は固定する構造とすることにより、出力 ることなく、四一の経滅共習から異なるサイズの出力部 ットを結構固定し、片原体はナットに出力増テポルト 発子ボルトの最大径に合わせた片間障略ナットを治却フ インに疾者できるので、治却フィンの板原の制約を受け (発明の効果) 本発明によれば、発電筋の出力摘子を (00100)